



2014年8月

本翻訳は、英文原本から参照用の目的で S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス (SPDJ) が作成したものです。SPDJ は、翻訳が正確かつ完全であるよう努めました、その正確性ないし完全性につきこれを保証し表明するものではありません。英文原本についてはこちらをご参照ください。

[HTTP://WWW.SPINDICES.COM/RESOURCE-CENTER/THOUGHT-LEADERSHIP/MARKET-COMMENTARY/](http://www.spindices.com/resource-center/thought-leadership/market-commentary/)

S&P500 月例レポートでは、S&P500 指数の値動きから米国マーケットの動向を解説します。市場全体のトレンドだけではなく、業種、さらには個別銘柄レベルでの分析を行い、米国マーケットの現状を掘り下げて説明します。

S&P 500® 月例レポート (2014年9月配信)

16年間の欲求不満の末、ついにシャンパンを開ける

S&P ダウ・ジョーンズが提供する指数に関する詳細はこちらをご覧ください。
(日本語サイト)

<http://www.japanese.spdji.com/>

S&P 500 月例レポート 執筆者

Howard Silverblatt

S&P ダウ・ジョーンズ・

インデックス

シニア・インデックス・アナリスト

ト

<mailto:howard.silverblatt@spdi.com>

www.spdi.com

S&P500 は 1998 年 2 月 2 日に初めて 1000 の大台を突破し、当時の私は数百人の親しい友人たち(その多くは知らない人ばかり)と一緒に盛り上がりました。次の節目の 2000 到達をいずれ祝うために 1998 年のドンペリを購入しました。ボトルはワインセラーにゆっくりと寝かせ、中間地点までは約 2 年で到達しました(2000 年 3 月 24 日に 1527)。その後バブルが崩壊し(最初のバブルは IT であり、住宅や金融バブルと混同してはなりません)、市場の価値は半減しました。そして S&P500 は、2014 年 8 月 26 日(火)についに終値で 2000 の大台を突破し(2000.02)、市場は祝福しました。終値で 1000 を突破して以来、16 年半ぶりのことでした。これはビッグニュースだったので、私もとっておきのドンペリを開けましたが、祝賀ムードというよりも、欲求不満を晴らしたような気分でした。いくつもの景気後退、バブル、ブルベアを乗り越えた、長く、厳しい道のりでした。次の 2 倍(4000)へは、もっと容易にスピーディーに到達できることを願うばかりです。こういった節目は、投資家にとってポートフォリオを吟味する良い機会です。運用成績とそうなった理由のみでなく、適切な金融商品に投資できているよう、目標を再評価することが大切です。ファイナンシャルアドバイザーを雇っている方は、電話を一本入れてみるとよいでしょう。年一回のミーティングは大抵、単なる年度ごとの見直しであり、第一回目のミーティングのような長期的な観点には重きが置かれられないことが多いです。投資家には、認識の高さと積極性が求められます。

8 月は通常、閑散相場で、大きな出来事はありません。今年の 8 月も閑散相場だったものの、多事多端でした。地政学的な問題でニュースはもちきりでした。良いニュースとしては、イスラエルとイスラム組織ハマスが期限を決めない長期的な停戦に合意、カイロで交渉を続ける運びとなったことです(以前にも同じようなことがありました)。米国にとっての悪いニュースは、イラクとシリアにおけるイラク・シリア・イスラム国(ISIS)の動きでした。

米国はイラクへの空爆という形で軍事的モードに入り、将来の行動に関する「戦略」を策定中です。欧州にとっての悪いニュースは、ロシアのウクライナ侵入でした。これにより、ロシアが、分離主義勢力をそのまま敗北させるつもりがないことが明らかになったためです。さらなる悪材料は、欧州経済の回復ペースが依然として遅いことでした(追加刺激策が予想されます)。結果として、米国を除く先進国市場は、0.10% 下落(新興国市場は 2.37% 上昇)しました。欧州での悪材料は米国では、悪材料視

されず、緩やかで、あまり着実でない上昇が続きました。8月にしても異様に閑散としたなか、S&P500は、終値ベースの過去最高値を5回更新し、心理的な節目である2000を初めて突破しました。結局、終値ベースの過去最高値を更新(2014年で32回目)するかたちで8月の取引を終えました。企業業績をはじめとするファンダメンタルズが引き続き下支え要因となりました。米国の第2四半期の業績は予想を上回り、過去最高を記録しました。投資家にとってより関連性があるのは、決算発表や業績予想の修正が行われるなか、第3四半期および第4四半期の業績予想は維持され、ともに前年同期比2桁増で過去最高を記録すると見込まれている点です。売り上げは5.9%増とようやく増加する一方、1株当たり利益(EPS)は11.7%増加しました。将来的には、小売りを筆頭に、売り上げの低調な伸びが引き続き、大きな懸念要因となるでしょう。小売りの第3四半期の伸びは、指数全体の半分となることが予想され、一部銘柄に関しては、第2四半期から減少するとみられています。一方、企業業績に対する楽観などを背景に、VIX恐怖指数は7月の16.95から8月は11.98に下落しました。第2四半期に関して特筆すべきは、自社株買いによる株式数の減少の影響で、S&P500の構成銘柄の2割超がEPSを前年比4%以上増やしている点です。現時点のデータにもとづいていえば、第3四半期には、より大きな影響が及ぶ可能性があります。米国の第2四半期の国内総生産(GDP)改定値は、前期比年率4.2%増と、速報値の4.0%増から上方修正されました。原油価格は低水準で推移するばかりでなく、さらに下落し、96ドルで8月の取引を終えました(7月は98ドル)。地政学的な問題が安全資産への逃避を一部誘うなか、金利にも同様の傾向がみられ、米国10年債利回りは2.34%(7月は2.57%)となりました。8月の商いは低調でしたが、夏休みが終わり、子どもたちの新学期が始まり、ウォール街も仕事に復帰する9月の取引は通常、活発化します。

S&P トータルリターン: 累積						
	S&P 500	S&P MidCap 400	S&P SmallCap 600	S&P Composite 1500	Dow Jones Industrial Average	
2014年8月	4.00%	5.08%	4.29%	4.10%	3.60%	
年初来	9.89%	8.13%	1.74%	9.45%	4.84%	
3カ月	4.69%	4.75%	3.21%	4.64%	2.87%	
6カ月	9.89%	8.13%	1.74%	9.45%	4.84%	
12カ月	25.25%	23.25%	18.70%	24.86%	18.18%	
3年	75.43%	71.90%	75.80%	75.18%	59.00%	
5年	118.10%	136.33%	135.84%	120.22%	105.12%	
10年	123.54%	187.24%	171.54%	129.98%	117.71%	
15年	101.38%	345.57%	346.20%	119.37%	124.80%	
S&P トータルリターン: 年率						
12カ月	25.25%	23.25%	18.70%	24.86%	18.18%	
3年	20.61%	19.79%	20.69%	20.55%	16.72%	
5年	16.88%	18.77%	18.72%	17.10%	15.45%	
10年	8.38%	11.13%	10.51%	8.68%	8.09%	
15年	4.78%	10.47%	10.48%	5.38%	5.55%	

出所: S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス 2014年8月末現在。表は図示する目的のためだけのものです。過去の運用実績は将来の運用成果を保証するものではありません。この表は、仮説に基づく過去の実績を反映している可能性があります。

S&P Dow Jones Indices	8月	3か月	年初来	1年	2年	3年	5年	10年	12/31/1999	15年	
	8/29/2014 (7/31/2014~)	(5/30/2014~)	(12/31/2013~)	(8/31/2013~)	(8/31/2012~)	(8/31/2011~)	(8/31/2009~)	(8/31/2004~)	以来 (8/31/1999~)		
S&P 500	2,003.37	3.77%	4.15%	8.39%	22.68%	42.43%	64.36%	96.29%	81.43%	36.35%	51.72%
一般消費財・サービス	544.81	4.33%	4.78%	2.77%	19.43%	51.70%	83.97%	164.65%	127.33%	82.02%	116.62%
生活必需品	463.79	4.57%	0.44%	4.78%	14.14%	26.75%	45.62%	81.96%	103.88%	122.93%	109.00%
エネルギー	715.72	1.83%	3.21%	9.83%	20.32%	34.14%	41.30%	82.90%	180.06%	236.46%	223.38%
金融	313.99	4.02%	4.74%	6.54%	20.07%	54.38%	74.60%	59.09%	-18.98%	-2.40%	0.01%
ヘルスケア	737.60	4.72%	6.86%	14.84%	29.68%	64.56%	91.43%	122.99%	116.52%	125.72%	110.63%
資本財・サービス	464.00	3.94%	-0.24%	2.55%	22.14%	47.54%	66.40%	113.22%	78.98%	69.73%	83.94%
情報技術	664.91	3.68%	7.51%	13.57%	31.67%	36.03%	69.81%	106.94%	135.41%	-17.65%	11.34%
素材	318.09	3.55%	2.97%	9.07%	25.02%	41.44%	43.77%	78.23%	94.40%	98.85%	114.53%
電気通信サービス	160.57	-1.07%	0.17%	3.25%	6.87%	6.12%	29.83%	52.45%	35.16%	-50.26%	-43.05%
公益事業	218.70	4.45%	1.31%	13.19%	16.05%	19.33%	27.91%	48.39%	72.69%	53.54%	36.65%
S&P アジア50指数	3,828.59	-0.36%	4.27%	5.94%	13.37%	21.02%	21.15%	44.08%	126.09%	101.46%	150.22%
S&P ヨーロッパ350指数	1,404.17	1.78%	-0.28%	4.90%	15.74%	28.73%	44.97%	43.86%	43.65%	-10.28%	7.64%
S&P グローバル1200指数	1,946.63	1.99%	2.09%	5.49%	18.65%	35.86%	43.98%	60.49%	71.48%	28.98%	47.04%
S&P LAC 40指数(米ドル)	4,200.70	8.55%	14.51%	14.63%	21.91%	3.33%	-7.25%	15.64%	241.41%	275.79%	454.85%
S&P TOPIX 150指数(日本円)	1,067.26	-1.31%	5.57%	-3.59%	13.54%	74.09%	65.56%	30.41%	13.57%	-30.05%	-13.56%
S&P/TSX 60指数	898.26	1.58%	7.37%	14.61%	23.54%	31.43%	23.35%	37.61%	92.97%	81.15%	120.53%
S&P/ASX 50指数	5,784.47	-0.35%	2.15%	4.66%	9.16%	31.51%	35.41%	29.11%	64.91%	84.83%	99.12%

出所: S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス 2014年8月末現在。

8月のS&P500は、幅広い銘柄が上昇しました(全体でプラス3.77%)。8月としては、6.07%上昇した2000年以来最高のパフォーマンスを記録しました。終値ベースの過去最高値を5回更新し、2000ポイントの大台を初めて突破しました。結局、終値ベースの過去最高値を更新するかたちで8月の取引を終えました。10セクター中9セクターが上昇しました。構成銘柄のうち、444銘柄が値上がり(平均でプラス4.89%)し、これは、477銘柄が値上がりした2001年10月(指数は10.77%上昇)以来最高のパフォーマンスです。一方、54銘柄が値下がり(平均でマイナス2.49%)しました。30銘柄が10%以上値上がり(平均でプラス13.96%)し、唯一10%以上値下がりしたのは、12.0%下落のWalgreenでした。前月は2.56%上昇と、最も良好なパフォーマンスを示した電気通信サービスでしたが、今月は一転して唯一値下がりしたセクターとなりました(マイナス1.07%)。年初来ベースでは、一般消費財・サービス(プラス2.77%)に続き2番目に悪いパフォーマンスを示しています(プラス3.25%)。1年間でみれば、電気通信サービスが最悪のパフォーマンスを示しています(6.87%の上昇)。同セクターの47.6%を占めるVerizon(VZ)は1.19%下落し、42.7%を占めるAT&T(T)は1.77%下落しました。生活必需品は8月に良好なパフォーマンスを示し、4.57%上昇しました。Coca Cola(KO)がMonster Beverage(MNST)に出資するとの発表を受け、Coca Colaは6.2%、Monster Beverageは38.2%、それぞれ上昇しました。Monster Beverageは8月に最も値上がりした銘柄でした。情報技術は3.68%上昇し、1年間リターンを全セクター中一番高いプラス31.67%に押し上げました。注目すべき銘柄の一つは、8月初めからじりじり上昇し、月末に予想を上回る決算と業績予想の上方修正を発表後は急騰した半導体メーカーのAvago Technology(AVGO)です。同銘柄は、月間で18.3%、年初来ベースで55.2%上昇しています。また、iPhone6を発表すると思われる「特別イベント」の開催を9月9日に控え、Apple(AAPL)は過去最高値を更新し、月間で7.2%、年初来ベースで13.4%、それぞれ上昇しました。8月に出来高が少ないのはよくあることですが、今年の8月は、昨年の8月に比べ、出来高が6%減っています。VIX恐怖指数は7月の16.95から8月は11.98に下落しました。連邦議会が9月8日に再開し、11月4日の中間選挙の投票日に向け、ワアワア言い始めます。9月8日の週にはAlibabaの新規株式公開(IPO)の開始が予定されています。9月9日にはAppleの「特別イベント」が開催され、米連邦準備制度理事会(FRB)の会合は16日と17日に行われます。正式には、25日の引け後に行われるNikeの決算を皮切りに(慣習としては、10月8日の引け後のアルコアを皮切りに)、第3四半期の決算発表シーズンに突入します。

S&P 500							
構成銘柄の騰落状況							
上昇/下落	2014年8月 (銘柄数)	平均パーセント 変化(%)	3カ月 (銘柄数)	平均パーセント 変化(%)	年初来 (銘柄数)	平均パーセント 変化(%)	
上昇	444	4.89	349	7.89	372	15.27	
下落	54	-2.49	152	-4.28	129	-7.52	
10%以上の上昇	30	13.96	105	16.10	214	22.72	
10%以上の下落	1	-12.00	14	-12.85	31	-17.94	
25%以上の上昇	1	38.23	9	30.21	62	38.63	
25%以上の下落	0	0.00	0	0.00	5	-30.49	
50%以上の上昇	0	0.00	0	0.00	11	62.05	
50%以上の下落	0	0.00	0	0.00	0	0.00	

出所: S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス 2014年8月末現在。

S&P Dow Jones Indices									
S&P500騰落率ベスト10とワースト10: 2014年8月									
ティッカー	会社名	8月	年初来	2012年12月以来	3/9/2009以来	10/9/2007以来	12/31/1999以来	セクター	主な事業内容
MNST	Monster Beverage	38.23%	30.46%	28.40%	279.12%	109.83%	25048.15%	生活必需品	ソーダ・ジュースの販売
AVGO	Avago Technologies Ltd	18.32%	55.24%	72.64%				情報技術	半導体メーカー
GILD	Gilead Sciences	17.51%	43.15%	119.61%	269.02%	283.23%	4667.96%	ヘルスケア	製薬会社
ROST	Ross Stores	17.11%	0.65%	25.41%	363.39%	401.18%	1414.33%	一般消費財・サービス	衣料小売り
MNK	Mallinckrodt	17.05%	55.93%					ヘルスケア	特殊医薬品会社
MHK	Mohawk Indus	17.03%	-1.93%	57.16%	730.98%	72.49%		一般消費財・サービス	住宅・商業用の床材の製造
THC	Tenet Healthcare	15.94%	45.25%	41.70%	1178.06%	233.41%	-26.58%	ヘルスケア	専門病院・総合病院の運営
DG	Dollar General	15.86%	6.08%	27.74%				一般消費財・サービス	ディスカウントストア
HD	Home Depot	15.65%	13.55%	24.25%	321.56%	127.37%	11.78%	一般消費財・サービス	ホームセンター
GPS	Gap Inc	15.06%	18.09%	22.68%	284.65%	100.63%	-17.22%	一般消費財・サービス	衣料品小売
ティッカー	会社名	8月	年初来	2012年12月以来	3/9/2009以来	10/9/2007以来	12/31/1999以来	セクター	主な事業内容
WAG	Walgreen Co	-12.00%	5.36%	54.96%	166.74%	46.34%	96.07%	生活必需品	薬局チェーン
WYNN	Wynn Resorts	-9.53%	-0.68%	93.28%	1298.20%	43.66%		一般消費財・サービス	カジノ運営会社
NE	Noble Corp	-9.28%	-24.05%	-10.88%	37.54%	-34.20%	89.50%	エネルギー	石油・ガス掘削
TWX	Time Warner	-7.22%	10.48%	31.36%	194.98%	9.53%	-72.40%	一般消費財・サービス	総合メディア
CTSH	Cognizant Tech Solutions	-6.77%	-9.43%	30.88%	436.66%	128.75%	2027.77%	情報技術	情報技術サービス
MSI	Motorola Solutions	-6.72%	-12.00%	14.58%	192.12%	-51.34%	-81.43%	情報技術	通信機器
DO	Diamond Offshore Drilling	-6.09%	-22.80%	-28.58%	-10.59%	-56.40%	58.82%	エネルギー	油田・ガス田の掘削請負
PXD	Pioneer Natural Resources	-5.78%	13.35%	58.85%	1299.34%	263.19%	1794.38%	エネルギー	石油・天然ガス会社
EXPD	Expeditors Intl of Wash	-4.35%	-6.67%	3.31%	70.11%	-21.21%	273.05%	資本財・サービス	航空輸送
RIG	Transocean Ltd	-4.19%	-21.79%	-3.09%				エネルギー	石油・ガス掘削請負

出所: S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス 2014年8月末現在。

投資家が押さえておくべきポイント

押さえておくべきポイント

- S&P500 は、1000の大台を突破した 16 年半後によく 2000 の大台に到達しました。これは年率換算リターン 4.3%、配当金込みで 6.2%を表します。公益事業(年率換算リターン 2.45%、配当金込みで 6.54%)は、情報技術(年率換算リターン 5.27%、配当金込みで 6.05%)のパフォーマンスを上回り、公益事業者は胸を撫で下ろしているところです。
- ロシアとウクライナ、米国と ISIS、イスラエルとガザ地区にまつわる状況にも関わらず株価は上昇し、8月の最終日を含め、終値ベースの過去最高値を 5 回更新しました。年初来ベースでは終値ベースの過去最高値を 32 回更新しています。
- 2014 年第 2 四半期の EPS 速報値は過去最高を記録しました。第 3 四半期および第 4 四半期の業績見通しが公表されるなか、予想は概ね維持されています。そして業績全般は、第 3、第 4 四半期ともに前年同期比 2 桁増で過去最高を記録すると見込まれています。ところが、一般消費財・サービスや生活必需品に関しては、指数全般の半分程度の伸び率にとどまり、一部の銘柄については、第 3 四半期の業績が第 2 四半期の業績を下回る見込みです。

- 自社株買いは構成銘柄の 20%超の企業の EPS に 4%以上の追い風を吹かせています。第 3 四半期はより大きな追い風が吹きそうです。
- S&P グローバル BMI(総合指数)は、米国市場の堅調にけん引され、2.09%上昇しましたが、米国を除くとわずか 0.36%の上昇でした。米国の株式市場は現在、世界の株式市場時価総額の 48.7%を占めています。

考えのメモと注目のポイント:

- 第 2 四半期は、売り上げがようやく緩やかながら増加しました。消費者はやっとお金を使い始めたのか、それとも単に必需品を揃えただけなのでしょう。そして、そのお金はどこから捻出したのでしょうか
- 原油価格は 96ドルを下回り、米国 10 年債利回りは 2.34%。

基本統計:

- 金利は引き続き低水準で推移(さらに下落)し、米国 10 年債利回りは 2.34%(2013 年末は 3.03%)、米国 30 年債利回りは 3.08%(2013 年末は 3.96%)、S&P500 の利回りは 1.99%(2013 年末は 1.89%)でした。
- 原油価格は引き続き下落し、96ドルで 8 月の取引を終えました(7 月は 98ドル)。
- S&P 先進国総合指数は 2.06%上昇しましたが、米国を除くと 0.10%下落しました。
- S&P500 は 8 月に終値ベースの過去最高値を 5 回更新し、終値ベースの過去最高値を更新するかたちで 8 月最後の取引を終えました(7 月は 5 回、6 月は 8 回、2014 年は合計 32 回)。緩やかで、あまり着実でない上昇が続きました。

9 月の注目イベント:

- 米雇用統計が 5 日に発表予定。
- 連邦議会が 8 日に再開、Alibaba の IPO 開始は 8 日の週の予定。
- Apple の「特別イベント」は 9 日に開催。FRB のお気に入りの JOLTS (Job Openings and Labor Turnover Survey、求人・労働異動調査)が同じく 9 日に発表され、FRB の会合は 16 日・17 日に開催。
- 25 日の引け後に行われる Nike の決算を皮切りに(あるいは、伝統主義の人に言わせれば、10 月 8 日の引け後のアルコアを皮切りに)、第 3 四半期の決算発表シーズンに突入。GDP の確定値は 26 日に公表予定。

	年率 株式リターン	年率 トータル リターン	配当金込みの リターン	株式 リターン	トータル リターン
エネルギー	8.67%	11.01%	27.02%	296.34%	464.26%
素材	4.84%	7.23%	49.41%	118.66%	217.62%
資本財・サービス	4.78%	6.89%	44.18%	116.71%	201.60%
一般消費財・サービス	6.97%	8.33%	19.43%	205.38%	276.14%
生活必需品	4.63%	7.18%	55.09%	111.50%	215.08%
ヘルスケア	5.94%	7.74%	30.19%	160.19%	243.64%
金融	0.57%	2.74%	377.82%	9.94%	56.50%
情報技術	5.27%	6.05%	14.85%	134.10%	164.65%
電気通信サービス	-1.26%	2.44%	292.61%	-19.01%	48.98%
公益事業	2.45%	6.54%	167.20%	49.30%	185.75%
S&P 500	4.27%	6.21%	45.47%	99.75%	171.06%

出所: S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス

S&P 500: 100ポイントごとの節目突破			
100ポイントごとの節目を終値ベースで初めて突破したのは？			
日付	終値	前回の節目突破から 今回の節目突破までの日数	前の節目からの パーセント変化
06/04/1968	100.38		
11/21/1985	201.41	6379	100.65%
03/23/1987	301.16	487	49.53%
12/26/1991	404.84	1739	34.43%
03/24/1995	500.97	1184	23.75%
11/17/1995	600.07	238	19.78%
10/04/1996	701.46	322	16.90%
02/12/1997	802.77	131	14.44%
07/02/1997	904.03	140	12.61%
02/02/1998	1001.27	215	10.76%
03/24/1998	1105.65	50	10.42%
12/21/1998	1202.84	272	8.79%
03/15/1999	1307.26	84	8.68%
07/09/1999	1403.28	116	7.35%
03/22/2000	1500.64	257	6.94%
05/03/2013	1614.42	4790	7.58%
08/01/2013	1706.87	90	5.73%
11/22/2013	1804.76	113	5.74%
5/23/2014	1900.53	182	5.31%
8/26/2014	2000.02	95	5.23%

出所: S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス

免責条項

著作権© 2014年 ザ・マグロウヒル・フィナンシャルの一部門である S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC。不許複製、Standard & Poor's、S&P、S&P 500、は、マグロウヒル・フィナンシャルの一部門であるスタンダード・アンド・プアーズ・フィナンシャル・サービシーズ LLC(以下「S&P」)の登録商標です。LATIXX、MEXICO TITANS 及び SPCI は、マグロウヒル・フィナンシャルの一部門であるスタンダード・アンド・プアーズ・フィナンシャル・サービシーズ LLC(以下「S&P」)の商標です。「ダウ・ジョーンズ」は、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングズ LLC(以下「ダウ・ジョーンズ」)の登録商標です。商標は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC にライセンス供与されています。本資料の全体または一部の再配布、複製、そして(または)複写を書面による承諾なしに行うことを禁じます。本資料は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC、ダウ・ジョーンズ、S&P 或いはそれぞれの関連会社(これらを合わせて「S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス」という)が必要なライセンスを持たない地域におけるサービスの提供を行うものではありません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC が提供する全ての情報は、個人とは無関係であり、いかなる個人、事業体または集団のニーズに合わせて調整したものではありません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、その指数を第三者にライセンス供与することに関連した報酬を受けています。指数の過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。

指数に直接投資することはできません。指数が表すアセット・クラスへのエクスポージャーは、指数に基づく投資可能商品を通して得られます。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、第三者が提供し、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスの指数のリターンに基づく投資リターンを提供することを目指す投資ファンド、或いはその他のビークルを提供、推奨、販売、宣伝、或いは運用することはありません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、指数に基づく投資商品が指数のパフォーマンスに正確に連動し、プラスの投資リターンを上げることについて保証しません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC は投資顧問会社ではなく、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、そうした投資ファンド或いはその他の投資ビークルに投資する適否に関して表明することはありません。そうした投資ファンド或いはその他の投資ビークルへの投資決定は、本資料で言及されたいかなる部分も信頼して実行されるべきではありません。そうしたファンド或いはその他のビークルに投資しようとする投資家に対して、投資ファンド或いはその他のビークルの発行体またはその代理人が作成する目論見書または類似文書に記載されているように、そうしたファンドへの投資に伴うリスクを注意深く検討した上で投資することを助言します。指数への証券の組入は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスによるその証券の買い、売り、または保有の推奨ではなく、また投資助言でもありません。

ん。S&Pの米国のベンチマーク指数及びダウ・ジョーンズの米国のベンチマーク指数の終値は、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスが、指数構成銘柄の各主要取引所が設定する終値に基づいて計算します。終値は S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスがサードパーティ・ベンダーの 1 社から受け取り、別のベンダーから届く価格と比較することにより検証されます。各ベンダーは終値を主要取引所から受け取ります。日中の実時間価格は、2 次検証を経ずに同様に計算されます。

これらの資料は、信頼できると考えられる情報源から一般に公衆が入手できる情報に基づき、情報提供のみを目的として作成されたものです。本資料に記載されるいかなる内容(指数データ、格付、クレジット関連の分析とデータ、モデル、ソフトウェア、或いはその他のアプリケーションまたはそれからの出力)も他のいかなる部分(以下「内容」という)も、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスによる事前の書面による承認なくして、いかなる形式といかなる手段によっても、改変、リパースエンジニアリング、再製作または配布、或いはデータベースまたは検索システムへの保存を行うことはできません。内容を、不法な或いは未認可の目的に使用してはいけません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス及びいかなるサードパーティ・データ・プロバイダー及びライセンサー(合わせて「S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス当事者」という)も、内容の正確性、完全性、適時性或いは利用可能性を保証しません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス当事者は、いかなる過誤、遺漏についても、原因の如何を問わず、内容を用いて得られた結果について責任を負いません。内容は、「現状」ベースで提供されています。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス当事者は、特定の目的または利用に対する販売可能性または適合性についてのいかなる保証も、バグやソフトウェアのエラーまたは欠陥がないこと、内容の機能が中断されないこと、或いは内容が何らかのソフトウェアまたはハードウェア構成により動作することの保証も、以上を含みそれに限定されない、あらゆる明示的または暗示的保証も拒否します。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス当事者は、いかなる場合も、いかなる当事者に対しても、内容の使用に関連して発生する、いかなる直接的、間接的、偶発的、典型的、補償的、懲罰的、特殊な或いは結果的な損害、費用、経費、法的費用、或いは損失に対しても(逸失収入または逸失利益、及び機会費用を含みそれに限定されず)、たとえ損害の可能性について事前に通告を受けていようと、責任を負いません。

格付けやリサーチ、バリュエーションなどのクレジット関連及びその他の分析は通常、スタンダード・アンド・プアーズ・フィナンシャル・サービシーズ LLC やキャピタル IQ インク(それらに限定されず)などの S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスの関連会社が提供します。そうした分析や内容の記述は、表明された日付時点における意見の記述であり、事実を記述しているものではありません。いかなる意見、分析及び格付確認決定も、いかなる証券を購入、保有、または売却するか、或いは投資決定を行うことの推奨ではなく、いかなる証券の適合性を示すものではありません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、いかなる様式または形式であれ公表後に内容を更新する義務を負いません。投資やその他のビジネス上の意思決定を行う際に、内容に頼るべきではなく、内容はユーザーやその経営者、従業員、アドバイザー、及び(または)顧客などのスキルや判断、経験の代替にはなりません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス LLC は、受託者または投資アドバイザーとして行動することはありません。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは信頼できると考える情報源から情報を入手しますが、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、入手する情報の監査を行わず、デューデリジエンスまたは独立した検証の義務を負うこともありません。

格付け機関が、ある管轄区においてある特定の規制目的のために別の管轄区で発行された格付けを承認することを規制当局が許す限りは、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスはいつでもその裁量で、そうした承認を割当て、取り下げ、或いは停止する権利を留保します。S&P レーティングズ・サービシーズを含む S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、承認の割当て、取り下げ、または停止に起因するいかなる義務も、またそのために被ったと主張されるいかなる損害の賠償責任も拒否します。

S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスの関連会社は、格付け及び特定のクレジットに関連する分析に対して、通常は発行体または証券の引受会社または債務者から報酬その他の経済的便益を受ける場合があります。係る S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスの関連会社は、その意見と分析を公表する権利を留保します。S&P レーティングズ・サービシーズから公開される格付けや分析は、そのウェブサイト www.standardandpoors.com (無料)、www.ratingsdirect.com 及び www.globalcreditportal.com (有料)から入手可能であり、S&P レーティングズ・サービシーズの出版物や第三者再配布業者などを通じてその他の手段でも配布される場合があります。弊社の格付け利用料に関する詳しい情報は、www.standardandpoors.com/usratingsfees から入手できます。

S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、各事業部の活動の独立性と客観性を維持するために、それぞれの活動を他から隔離しています。その結果、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスの一部の事業部は、他の事業部では入手できない情報を保有する可能性があります。S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、各分析プロセスの中で受け取った非公開情報の機密を守る方針及び手順を確立しています。

さらに、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックスは、広範なサービスを、証券の発行体、投資顧問会社、証券会社、投資銀行、その他の金融機関及び金融仲介業者など多くの組織に提供しています。したがって、これらの組織から報酬その他の経済的便益を受ける可能性があります。これらの組織には、証券やサービスを推奨し、格付け評価し、モデルポートフォリオに組入れ、評価するか別の対応を行う組織が含まれます。

グローバル業種分類基準(GICS®)は、スタンダード・アンド・プアーズ及び MSCI によって開発され、両社の独占的所有物であり登録商標です。MSCI、スタンダード・アンド・プアーズ及び GICS 業種分類の編纂、計算、作成に関わるその他の当事者のいずれも、係るデータの保証や表現(またはその使用により得られた結果)に関していかなる表明や示唆も行っており、そうしたすべての当事者は明示的に、特定の目的に照らした係るデータの独自性、正確性、完全性、販売可能性、適合性に関するいかなる保証も拒否します。前述の内容に制限を加えることなく、いかなる場合も MSCI、スタンダード・アンド・プアーズ及びその関連会社及び GICS 業種分類の作成または編纂に関わるサードパーティは、いかなる直接的、間接的、特殊的、懲罰的、結果的、その他の損害(逸失利益を含む)について、例え損害の可能性について事前に通告を受けていようと、責任を有していません。

S & P ダウ・ジョーンズ・インデックスより、幅広い指数関連の最新情報を受取りたい方は、[こちら](#) よりご登録ください。

